

多様な人材と連携！ 獣害対策から始まる地域活性化！ 紀宝町 浅里集落

●集落（地区）の概要

- ・所在地：紀宝町 浅里地区
- ・戸数（32戸）
- ・農地の状況（水田11.5ha）
- ・主な作物（水稻）
- ・主な加害鳥獣（ニホンザル、ニホンジカ、イノシシ）



●活動のようす



「農村活性化の取組に関する協定」
調印を記念して記念撮影



「おもしろ大学」の様子
学生(大学生、高校生)に講義
内容は、獣害、災害、医療などさまざま



「獣害柵をバージョンアップ」
シカの飛び越えを防ぐため、
電気柵を3段から5段に変更



「侵入防止柵周辺のつる除去」の様子
企業のCSR活動で、新入社員と一緒に作業①



「放置竹林整備」の様子
企業のCSR活動で、新入社員と一緒に作業②



伝統食「なれ寿し」
獣害被害が減少したことで、
お米が収穫できるようになり、
加工品にもチャレンジ！

●取組内容

当集落では、平成25年度に地域活性化プランを策定し、「獣害対策の実施と獣害に強い集落づくり」および「農地・農業を守るシステムづくり」を掲げ地域、紀宝町、三重県が一体となって取組を始めました。取組初年度には地域の集落営農組織「飛雪の滝百姓塾」が中心となって、廃漁網を使ったシカ防護柵の設置、集落での獣害研修会、アンケートを実施し、取組2年度目には前年度の取組結果を踏まえ、集落の圃場を囲む形で恒久柵を設置し、シカ、イノシシの農地への侵入を防止しました。取組3年度目以降は、獣害対策研修会に併せて駆逐用煙火講習を実施し、追い払い花火によるサルの追い払いに加え、シカ、イノシシの追い払いも行っています。

また、その間に「飛雪の滝百姓塾」を農事組合法人化し、地域の営農受託を加速化すると共に平成27年度には名古屋の企業と「農村活性化の取り組みに関する協定書」を締結し、企業のCSR活動の中で水稻作業、地区の環境整備作業を行っています。さらに、同年度から恒久柵の維持管理を地域ぐるみで行うため、地域水田の多面的機能を保全する母体である「浅里地区環境保全協議会」が行っています。

他にも、今年度からは、廃校になった校舎を活用して「おもしろ大学」を開校し、毎月さまざまな勉強会を開催しています。その中で、学生に獣害対策の講義や柵の管理維持等の実習をすることで、若い力を地域の力につなげています。

以上の取り組みを行ってきた結果、獣害被害は激減しました。さらには、獣害対策について地域全体で取り組む意識が芽生え、柵の維持管理、花火による追い払いなど地域全員で継続的に取り組んでいます。また、獣害対策により「飛雪の滝百姓塾」を中心とした営農が活発となり、地域流通米「飛雪米」の販売や、企業のCSR活動による若者達との交流などの二次効果が生まれ、地域の活性化に繋がっています。